

新たに発生が確認された病害虫(\*)、今後の発生に注意を要する病害虫等

| 農作物名   | 病害虫名                                   | 発生地域 | 発生確認年月        | 発生・被害の概要等  |
|--------|--|------|---------------|--|
| メロン    | ホモプシス<br>根腐病<br>(発生拡大)                 | つがる市 | 令和2年<br>4月27日 | 1筆18aの施設栽培で確認された。<br>定植1か月後頃から下位葉が黄化するとともに、茎の伸長が鈍化した。被害株の根部に偽子座と疑似微小菌核の形成を確認した。分離菌の接種により病徴、標徴を再現した。<br>(農林総合研究所)   |
| トマト    | サビヒョウタンゾウムシ<br>シラフヒョウタンゾウムシ<br>(日和見食害) | 蓬田村  | 令和2年<br>5月18日 | 施設トマトにおいて、定植直後の下葉を食害するゾウムシ成虫が捕獲された。骨片や交尾器の形状特徴から、サビヒョウタンゾウムシとシラフヒョウタンゾウムシの2種が混在していた。トマト苗を餌に両種成虫や孵化幼虫を飼育したが、根部の幼虫食害や次代成虫の発生は確認されなかったことから、越冬成虫の日和見的な食害と考えられた。本ゾウムシ成虫による食害は平成27年頃から見え始め、今年が一番ひどかったとのこと。<br>(東青農業普及振興室・病害虫防除所) |
| ブルーベリー | ミズキカタカイガラムシ<br>(種名確定)                  | 県内全域 | 令和2年<br>6月4日  | 5年くらい前から県内ブルーベリー生産園地で見られているカイガラムシ類について、横浜植物防疫所に標本を送付したところ、ミズキカタカイガラムシと判明した。本種は北海道～九州、世界各地に広く分布している。<br>(りんご研県南果樹部・病害虫防除所)  |
| はくさい   | ヒメキボシカスミカメ<br>(特異発生)                   | 黒石市  | 令和2年<br>7月14日 | 黒石市の家庭菜園(1a)にて、新葉を吸汁する個体を多数確認した。一般生産ほ場での被害報告はない。<br>(農林総合研究所)  |
| たまねぎ   | ヒラズハナアザミウマ*<br>(発生拡大)                  | 黒石市  | 令和2年<br>7月30日 | 黒石市のたまねぎ栽培(10a)において、ネギアザミウマとほぼ同数の割合で混在して葉鞘を食害するヒラズハナアザミウマを確認した。<br>(農林総合研究所)   |
| ぶどう    | ブドウミタマバエ*<br>(局所発生)                    | 五戸町  | 令和2年<br>8月4日  | (地独) 青森県産業技術センターりんご研究所県南果樹部内のハウスぶどう(アインセツシードレス; 1a)に本種による食害と果粒から脱出した蛹を認めた。寄生果粒や成虫などを(国研)農研機構果樹・茶業研究部門に送付し、形態特徴から日本産ハリオタマバエ属タマバエ類と、分子系統解析からブドウミタマバエと同定された。なお、一般園地では確認されていない。<br>(りんご研県南果樹部)                                 |

| 農作物名              | 病害虫名                     | 発生地域       | 発生確認年月                                     | 発生・被害の概要等  |
|-------------------|--------------------------|------------|--|--|
| もも                | すすかび病*<br>(局所発生)         | 弘前市<br>黒石市 | 令和2年<br>8月下旬                               | 弘前市では”川中島白桃”で、黒石市は”さくら白桃”で発生を確認した。果実に不整形でやや薄く汚れたような斑紋が生じ、顕微鏡下で淡褐色の菌糸が繁殖<br>実に不整形でやや薄く汚れたような斑紋が生じ、顕微鏡下で淡褐色の菌糸が繁殖<br>状況からすすかび病と判断した。<br>(りんご研究所)             |
| スイートコーン<br>デントコーン | ツマジロ<br>クサヨトウ*<br>(発生拡大) | 県南地域       | 令和2年<br>8月下旬～<br>(飛来世代)<br>9月下旬～<br>(飛来世代) | 8月下旬に県南地域のスイートコーン及びデントコーンにおいて、チョウ目幼虫による新葉鞘や抽出葉の食害を観察した。幼虫の形態特徴及び羽化成虫からツマジロクサヨトウと同定された。9月下旬～10月中旬には、次世代孵化幼虫による子実食入が県南地域で、緑肥ソルガムでの食害が津軽地域で確認された。<br>(病害虫防除所) |
| 灯 火               | ツヤアオカメムシ<br>(生息確認)       | 津軽地域       | 令和2年<br>10月6日                              | 黒石市1地点、弘前市1地点、いずれも灯火にて確認された。被害作物等は不明であるが、県内における過去の発生報告が極めて少ない害虫である。<br>(農林総合研究所)   |